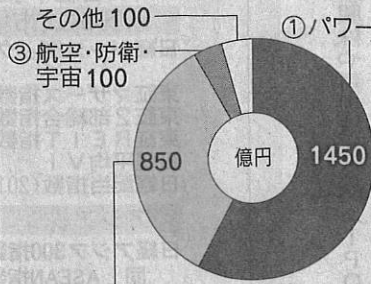


三菱重 フォークリフト事業 営業益 2.2 倍 360 億円に

20年3月期

三菱重の事業別営業利益
(2018年3月期見通し)



- ① 火力発電設備、原子力など
- ② フォークリフト、過給器、製鉄機械など
- ③ 航空機、ロケット打ち上げなど

三菱重工業はフォークリフト事業を手掛ける子会社の営業利益(のれん償却前)を2020年3月期をメドに、前期比2・2倍の360億円程度に引き上げる計画だ。フォークリフト子会社2社を今年10月に統合。重複する機能や拠点の集約を通じて固定費を削減し、

採算を改善する。

三菱重は10月に傘下のニチュ三菱フォークリフトとユニキャリアを統合し「三菱ロジスネクスト」を発足させる。統合前の三菱ロジスネクストは166億円で、売上高営業利益率(同)は4・2%だった。

年3月期の売上高は3969億円で、三菱重の連結全体の約1割を占める。営業利益(のれん償却前)は166億円で、売上高営業利益率(同)は4・2%だった。

統合後は両社の生産拠点を集約して固定費を1割程度削減するほか、原材料の共同調達も拡大する。需要が伸びる無人フォークリフトや無人搬送システム、部品などの好

採算品を伸ばして売上高営業利益率(同)を8%まで高める計画だ。三菱重は造船や火力発電設備など大型受注生産品の苦戦が続いている。ル・エレクトリック(GE)などの受注競争が激しい。造船事業は船価の低迷や液化天然ガス(LNG)関連設備のコストが重荷となっている。半面、フォークリフトなどの物流機器、自動車用過給器(ターボチャージャー)といった量産品の分野は市場環境が良好。「インダストリー&社会基盤」事業で早期の利益拡大を目指す。